

管内市町村の概要



オホーツク管内 3市14町1村

■総面積 10,690.60km²
(全道比12.8%)

■総人口 289,353人
■世帯数 142,759世帯



1 ■面積 1,427.41km² ■人口 120,001人
東西110kmと、日本で最も長い自治体で、面積も全道一。管内商工業の中心都市です。年間日照時間の長さは全国有数で、タマネギ生産量日本一を誇る農業や、ホタテなどの漁業も盛ん。これらは「オホーツク北見塩きそば」に欠かせません。また、ラグビー合宿やカーリングなどで知られる、スポーツ都市という一面も。温根湯温泉は、リニューアルされた「山の水族館」が大人気です。



2 ■面積 471.00km² ■人口 36,744人
春・水芭蕉群落に囲まれた網走湖、夏・市民花園に彩られる天都山、秋・サンゴソウが湖岸を埋め尽くす能取湖、冬・砕氷観光船「おーろら」からの迫力ある流氷など、一年を通して美しい風景が広がります。「天都山展望台」や「感動の径(みち)」からの眺望も絶景。海の幸に恵まれているのももちろんのこと、網走湖はシジミやワカサギの、一大産地でもあります。



3 ■面積 830.78km² ■人口 22,782人
巨大なドリル状スクルーで突き進む「砕氷船ガリンコ号」や、「水海展望塔オホーツクタワー」、「流水科学センター」など、流水観光でよく知られています。カニに代表される海産物も魅力です。かつて東洋最大とうたわれた鴻之舞金山跡と、その歴史を伝える上原駅駅舎が、近年静かな注目を浴びています。オホーツク紋別空港が立地する。管内北部(遠紋地域)の中核都市です。



4 ■面積 438.41km² ■人口 20,340人
日本最大のカルデラ湖・屈斜路湖と噴煙たなびく硫黄山、知床や阿寒の山々の大パノラマが広がる美幌峠は、オホーツクは元より、全道でも屈指の観光地。園域の主要都市に近接する優れた立地と、気候にも恵まれ、活気ある町です。畑作・畜産など農業が盛んで、とりわけ自慢の豚を目玉に、広く売り出し中です。



5 ■面積 716.80km² ■人口 5,066人
林業が盛んで、木材・木製品製造業出荷額は全道一を誇り、市街地のすぐ近くで、巨大な貯木場を見ることが出来ます。美幌峠をも見下ろす津別峠展望台と、その麓にある一件宿の奥屈斜路温泉、可憐なクリンツウの群落、それに原始の森に囲まれ静けさに満ちた秘湖・チミケツ湖など、選りすぐりの山村の魅力に満ちあふれています。



6 ■面積 737.12km² ■人口 11,833人
半島の北半分を占め、知床峠・知床五湖・カムイワッカ湯の滝・オシロコシの滝などがある。世界自然遺産知床を代表する町です。観光拠点のウトロ地区は豊かな温泉郷でもあり、賑わいを見せています。農業と漁業も町を代表する産業で、中でもサケ・マスは漁獲量は日本一。地場産の優良な食品を「知床しゃりブランド」として積極展開しています。



7 ■面積 402.76km² ■人口 4,259人
町を流れる斜里川が清流日本一に輝くなど、名前のとおり清らかな里です。美しい景観は、全国農村景観百選など、数々の賞を受けています。冬場は人を寄せ付けぬ裏原雪展望台や神の子池など、神秘的な自然も見逃せません。地場産のじゃがいもを使った焼酎は、日本初の本格じゃがいも焼酎として珍重されています。



8 ■面積 286.89km² ■人口 5,094人
道内に原生花園はいくつもあれど、最も有名なのがここにある小清水原生花園ではないでしょうか。オホーツク海と、ラムサール条約登録地・満潮(とうつ)湖にはさまれた海岸に、異国のような風景が広がります。また、ゆりの郷こしみず「リリーパーク」は、13haの広大な敷地に、100品種・700万輪を超えるユリが咲き誇り、夏を彩ります。



9 ■面積 190.95km² ■人口 5,197人
管内で最も小さな町ですが、面積の4割近くが農地として利用される純農村地帯です。地域の基幹作物であるピート・小麦・じゃがいもを軸に、水稲・野菜・果物・花卉それに生乳など、幅広く質の高い農業が行われ、高い評価を得ています。特に「くねっぷメロン」は、メロン栽培の盛んな北海道の中でも、ひときわ人気があります。



10 ■面積 527.27km² ■人口 3,054人
木目の美しさが特徴の食器など、生活に溶け込んだ木工品「オケクラフト」が町のシンボル。むしろそれは、管内西部の林業拠点である置戸の豊かな森のたまものです。その自然を満喫できるのが、鹿ノ子ダム(おけと湖)下流にある、鹿の子沢です。全国巨木百選に選ばれた三本柱や虹の滝など、充実したハイキングが楽しめます。



11 ■面積 404.94km² ■人口 5,304人
全国第3位・北海道ではナンバーワンの面積を持つサロマ湖は、その雄大な景観とともに、ホタテやカキ、ホッカイシマエビなど豊かな水産資源をもたらしてくれます。そして、水産業と並び畑作・酪農など農業も町の主要産業ですが、とりわけカボチャは、マスコットキャラクターにも使われるほど、町を代表する作物となっています。



12 ■面積 1,332.45km² ■人口 20,739人
町のシンボル蔵望岩(がんぼういわ)と日本最大級のコスモス園の旧遠軽町、世界中から収集した木のおもちゃを集めた「ちゃちゃワールド」の旧生田原町、北海道遺産・森林鉄道蒸気機関車「雨宮21号」の旧丸瀬布町、道内3番目のジオパークに認定された白濁黒曜石遺跡の旧白滝村、これら4つの個性で特徴的な町村が合併して誕生しました。



13 ■面積 505.79km² ■人口 9,211人
120万本もの花が春を告げるチューリップ公園のある旧上湧別町と、オホーツク海やサロマ湖の恵みと酪農で栄える旧湧別町が、分村から一世紀を経て再び一つになりました。ここをそれぞれ起点・中継点・終点とするサロマ湖100kmウルトラマラソン、オホーツクサイクリング、湧別原野オホーツククロスカンリースキー大会は北海道を代表する超・長距離イベントです。



14 ■面積 766.89km² ■人口 2,770人
日本最大級である「芝さくら滝公園」の芝さくらは有名ですが、国内唯一の商業栽培が行われている「ハッカの町」でもあります。また、陽植園(ようしょくえん)は8万m²の敷地に約800種類の季節の花々が咲き誇ります。市街地の中を流れる珍しい深谷・錦仙峡(きんせんきょう)を楽しむ渚滑川深谷遊歩道は、美しい日本の歩きたくなるみち500選に選ばれています。



15 ■面積 362.54km² ■人口 3,910人
オホーツクを代表する酪農のまち、興部。それは、全国にその名を知られる牛乳・乳製品、食肉加工品の数の多さでも証明されるでしょう。町内に多数ある個性的なチーズ工房や牧場直営レストラン、アイス・ソフトクリーム販売店は、とても大満足のおいしさです。すっかり北海道土産の定番になった生キャラメルは、この町で生まれました。



16 ■面積 308.08km² ■人口 1,129人
管内唯一の村で、人口は全道5番目の少なさですが、力を入れている地域情報化は、全国の模範例となっています。ホテル「森夢(リム)」、森の美術館「木夢(コム)」、マルチメディア館「IT夢(アム)」、道の駅・フラワーパーク「花夢(カム)」の4施設がランドマーク。最近では、地元で多数生息するエゾシカの飼育と食用化に取り組んでいます。松茸焼酎が特産焼酎「にしおこっぺ」として復活。



17 ■面積 636.86km² ■人口 4,447人
オホーツク海に突き出た日の出岬は、流水が一望できるオホーツクオムイ温泉や、魅力的なキャンプ場などがある観光スポット。基幹産業の漁業では、毛がにとサケが代表的な水産品ですが、サケのうちでも特に、数千尾に1本ともいわれるメジカ(目近)や独自ブランド「雄宝」として厳選された天然銀毛サケは高値で取引されています。



18 ■面積 343.66km² ■人口 7,473人
空の玄関・女満別空港を擁する旧女満別町と、日本最大級の芝桜公園に花のじゅうたんが広がる旧東藻琴村が合併して生まれた新しい町です。農地が4割を占める屈指の農業基地としての面を合わせて持っています。畜産加工にも力が入っており、地場産品の販売所には、自慢のチーズや食肉加工品が並びます。シジミやシラウオなど、網走湖の内水面漁業も見逃せません。

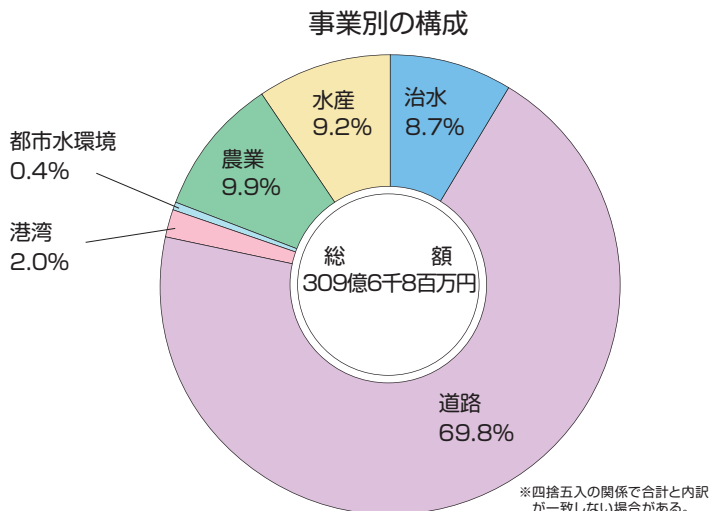
※面積は平成27年10月1日現在全国都道府県市区町村別面積調(国土院調)

※人口は平成28年3月末現在、世帯数は平成27年1月1日現在の住民基本台帳ネットワークシステムの入力状況であり、各市町村が公表する人口と一致しない場合があります。

平成28年度 事業費総括表

事 項	平成28年度予算額
治 水	27億4百万円
道 路	216億1千6百万円
港 湾 整 備	6億5百万円
都 市 水 環 境	1億3千2百万円
農 業 農 村 整 備	30億5千7百万円
水 産 基 盤 整 備	28億5千5百万円
合 計	309億6千8百万円

※農業農村整備及び水産基盤整備を除き、工事諸費は含まれていない。
なお、四捨五入の関係で合計と内訳が一致しない場合がある。



管内の概況

位置・気候

管内の西部を南北に北見山地、南部を東西に千島火山帯が走り、北東部は280kmにわたってオホーツク海に接し、3市14町1村で構成されています。

気候は、冬期間の寒さは厳しいものの比較的穏やかで、年間平均降水量が800ミリ程度と少なく、日照時間に恵まれた地域です。

また、沿岸部ではおおむね1月下旬から3月にかけて、オホーツク海特有の流氷により海面が覆われます。しかし、地球温暖化の影響を受け、近年は減少傾向となっています。

オホーツク管内沿岸の流氷観測（平年値）

観測地点	流氷初日	流氷終日	期 間	流氷接岸初日	海 明 け
網 走	1月21日	4月11日	81日間	2月 2日	3月20日
紋 別	1月23日	4月 3日	71日間	2月 6日	3月14日
雄 武	1月25日	4月 1日	67日間	2月 3日	3月15日

※統計期間 1981～2010年 雄武は2004年、紋別は2007年に観測終了
出典：気象庁「北海道沿岸の流氷観測」

産 業

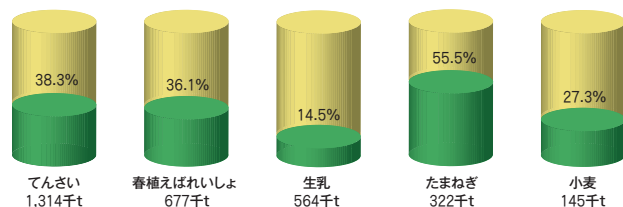
農 業

管内の農業は、畑作と酪農を中心とした大規模農業が展開され、我が国の総合食料基地として重要な役割を担っており、耕地面積は16万6,500haと全道の14.5%（平成26年）を占めています。

畑作物では、寒冷地に適したてんさい、春植えばれいしょ、たまねぎと小麦を中心とした野菜類が主に作付けされています。また、畜産では、酪農、肉用牛生産が中心となっています。

農業生産量（平成25年）は、てんさい131万4千トン（全道比38.3%）、春植えばれいしょ67万7千トン（同36.1%）、生乳56万4千トン（同14.5%）、たまねぎ32万2千トン（同55.5%）、小麦14万5千トン（同27.3%）となっています。

主要農産物の道内生産量シェア（H25）



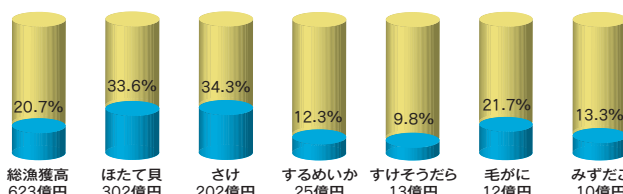
出典：オホーツク総合振興局「オホーツクの農業2014～統計編～」

水産業

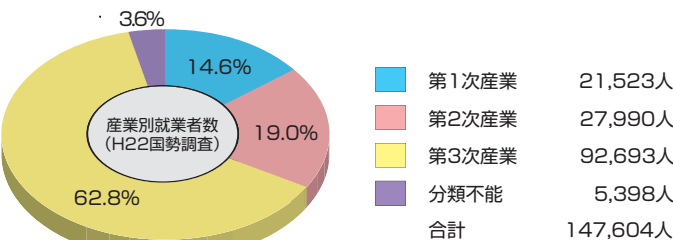
管内の水産業は、オホーツク海沿岸を漁場とするほたて貝けた網漁業、さけ定置網漁業並びに沖合海域を漁場とする沖合底引き網漁業を中心に営まれています。

漁獲量（平成26年）は、26万9千トン（全道比22.5%）となっています。

総漁獲高と上位6品目の道内シェア（H26）



出典：北海道水産林務部「平成26年北海道水産現勢」



林 業

森林面積は、平成27年4月1日現在、769,963haで管内総面積の72.0%を占め、全道森林面積の13.9%に当たり、所有比率は、国有林55.9%、道有林14.0%、市町村林4.4%、私有林25.6%となっています。

総蓄積は、136,803千㎡で全道森林蓄積の17.6%を占め、道内の主要な木材生産地となっています。

樹種別蓄積量は、トドマツ・エゾマツ・カラマツ類等の針葉樹が64.0%、ナラ類・カンバ類・シナノキ等の広葉樹が36.0%となっています。

出典：北海道水産林務部「平成26年度北海道林業統計」

商工業

管内の工業は、食料品製造業、木材・木製品製造業など第1次産業に関連した地場資源利用型工業が主体ですが、携帯電話端末の主力拠点工場が立地するなど、最先端技術を用いた製造業も重要な位置を占めています。

工業出荷額（平成26年）は、3,402億円（全道比5.1%）となっており、そのうち食料品の出荷額が2,418億円（同12.2%）と71.1%を占めています。

また、管内の商業では、年間商品販売額（平成26年）が6,692億円（全道比4.1%）となっています。

出典：北海道総合政策部「平成26年工業統計調査」、経済産業省「平成26年商業統計調査」

観 光

管内には、世界自然遺産に登録された知床と阿寒の2つの国立公園、ラムサール条約登録湿地の湧沸湖を含む網走国立公園のほか、2つの道立自然公園があります。山岳、湖、海などの豊かな自然景観とともに流氷、サングラなど他の地域には見られない四季折々の多彩な観光資源に恵まれています。

管内を訪れる観光客の入込み数は、830万人（平成26年度）となっており、夏型のイベントに加えて、流氷や冬のスポーツを利用した冬型のイベントも各地で盛んに行われています。

出典：北海道経済観光局「北海道観光入込客数調査報告書 平成26年度資料編」